

歴史資料にみる鳥取県の災害

— 過去に学び、未来に生かす —

東日本大震災から10年が経ちました。日本列島では、今なお地震・豪雨・台風・噴火などの自然災害が相次いでおり、また新型コロナウイルス感染症も各地で猛威を振るっています。現代を生きる我々は、これらの災害とどのように向き合っていけばいいのでしょうか。

大規模災害を契機に、近年、過去の災害を見直すという機運が高まっています。我々の先人たちは、いつの時代も災害と向き合い、さまざまな知恵と努力でそれを乗り越えてきました。歴史を知ることが、先人たちの生き方に学び、過去の教訓を未来に生かすことにつながります。本シンポジウムがこれからの本県の災害対策を考える一助になれば幸いです。

令和4年

3/5 土

時間 午後1時～午後4時

定員 80名

事前申込制
参加無料

Zoomによるオンライン開催

参加方法 ※参加申込締切は、令和4年2月28日(月)とさせていただきます。

①鳥取県立公文書館「災害アーカイブズシンポジウム申込ページ」
(<https://www.pref.tottori.lg.jp/302059.htm>)からお申込みください
(右記QRコードからもお申込みできます)。

②事前にWeb会議アプリ「Zoom」のインストールをお願いします。

③申込完了後、メールにてZoomリンクが送られてきます。

※詳細は、ホームページをご参照ください。



プログラム

13:00	開会
13:05～13:10	鳥取県災害アーカイブズ事業の紹介
基調講演	「近世における因幡・伯耆の地震・台風・疫病」
13:10～14:40	講師: 矢田 俊文氏 (新潟大学名誉教授) 鳥取県生まれ。1976年大阪市立大学文学部を卒業後、1982年6月大阪市立大学大学院博士課程を単位取得満期退学。1987年新潟大学人文学部助教授、1996年に教授に就任。1996年「日本中世戦国期権力構造の研究」で、大阪市立大学より博士(文学)を取得。新潟県中越地震や、新潟県中越沖地震に際しては、被災地からの歴史資料の救出にあたった。中越地震を契機に2006年に発足した新潟大学災害復興科学センターでは、アーカイブズ分野の代表を務め、2019年3月に新潟大学を退職し、4月に名誉教授に就任。
関連報告	「新聞記事にみる鳥取県のスペイン風邪(仮)」
14:50～15:50	報告者: 藤澤 匡樹 (鳥取県立公文書館専門員)
15:50～16:00	質疑応答、総括コメント

主催・問い合わせ先

鳥取県立公文書館 〒680-0017 鳥取市尚徳町 101
電話 (0857) 22-4620 ファクシミリ (0857) 22-3977
電子メール kobunsho@pref.tottori.lg.jp